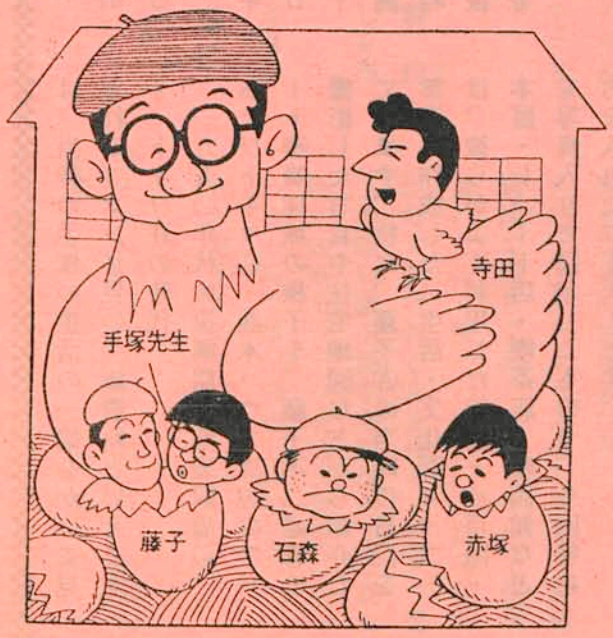
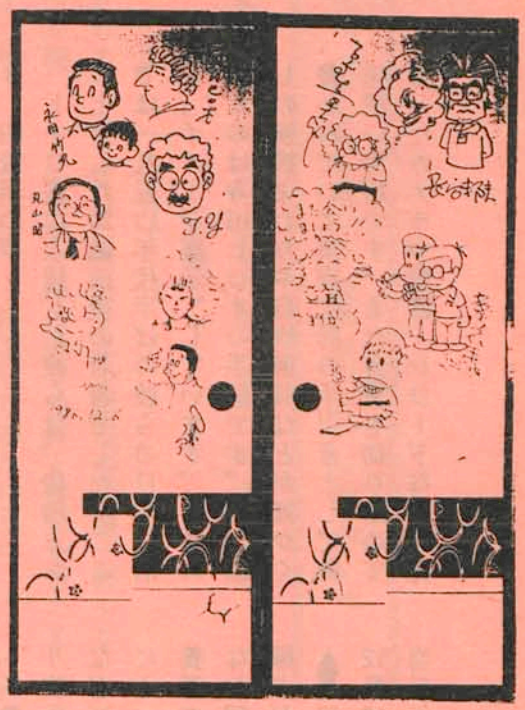
かたりべ52

豊島区立郷土資料館だより





⇧寺田ヒロオ「トキワ荘物語」より
トキワ荘の漫画家たちの寄せ書き（館蔵）⇨

《展示資料紹介》

この襖（ふすま）は、一九八六年に開催した特別展「トキワ荘のヒーロー・たち」の際、漫画家の皆さんに寄せ書きしていただいたものです。

トキワ荘は、椎名町5丁目（現・南長崎3丁目）にあった木造2階建てアパートで、現在一流の漫画家となった人たちが青春時代・下積み時代を過ごした場所です。

特別展では、トキワ荘の襖や天井板を使って、手塚治虫・藤子不二雄が住んだ14号室（四畳半）を復元展示し、12月6日にここで同荘会を行ないました。右側に長谷邦夫・石ノ森章太郎・水野英子・藤子不二雄・赤塚不二夫、左側に寺田ヒロオ・永田竹丸・横山隆雄・丸山昭・鈴木伸一・つのだじろうの自画像とサインがみえます。永田・つのだ・長谷の3氏は通い組でした。丸山氏は講談社『少女クラブ』の元編集者で、新人漫画家を育てた彼らの恩人です。

惜しくも寺田・石ノ森・藤子Fの3氏は亡くなりましたが、彼らの青春時代を象徴するこの襖は1月24日まで公開展示しています。〔横山〕

トキワ荘のヒーローたち・2

ー漫画にかけた青春ー

1月24日まで開催中！

月曜・祝日・第3日曜日は休館

開催にあたって

一九八六年に開催した特別展から12年目を迎えた今年、あのトキワ荘のヒーローたちが再び登場します。

今回の展示では、今は亡き4名のトキワ荘出身の漫画家ー手塚治虫、寺田ヒロオ、藤子・F・不二雄、石ノ森章太郎ーを中心にその作品を紹介し、戦後の漫画文化をふりかえります。またトキワ荘時代の彼らの暮らしぶりとあわせて、戦後復興期の一九五〇年代の豊島区の様子を写真や地図などから点描します。

【展示の見どころ】

1．トキワ荘と並木ハウス

一九五二年築のトキワ荘の天井板・床板・襖と写真は、戦後区内に数多く建てられた木造モルタル2階建てアパートの様子をうかがえる貴重な資料です。

また手塚治虫がトキワ荘を出て、3年間住んだ雑司が谷鬼子母神近くの並木ハウスは今もなお現役で、大家の砂金さんが大切に保管してきた手塚の下書きやレコード箱・果物皿・バケツ・半てんなどは、当時の手塚の生活の一端をかいま見られるファン必見の一級資料といえます。

2．トキワ荘の時代

一九五〇年代の復興期の池袋駅周辺、およびトキワ荘・並木ハウス周辺のアパート密集地域の様子を、藤子不二雄Ⓐの撮影した写真や住宅地図などから紹介しています。特に、藤子Ⓐの当時の日記を参考に作成した〝生活・文化圏マップ〟は、彼らがよく利用した銭湯・八百屋・本屋・レコード店・喫茶店・映画館などを写真入りで図示したもので、今回特に力を入れたコーナーです。

3．四畳半の夢

トキワ荘に入居した彼らは、皆地方から上京した20歳前後の若者でした。ここでは一九五〇年代半ばの彼らの日常生活を〝イメージ展示〟しています。参考にしたのは寺田ヒロオの手紙です。引っ越しの挨拶まわりや自炊道具などが細かく書かれていて東京生活の手引きとして興味深い資料です。また食費を切り詰めて買ったカメラや電蓄、レコードなど文化・娯楽活動の様子も展示しています。

4．追悼・四人のヒーローたち

漫画家の出発点となった『漫画少年』の投稿作品のほか、手塚治虫の「ジャングル大帝」「鉄腕アトム」「リボンの騎士」、寺田ヒロオの「背番号0」「スポーツマン金太郎」、藤子・F・不二雄の「オバケのQ太郎」「ドラえもん」、石ノ森章太郎の「サイボーグ009」「仮面ライダー」など戦後の漫画文化を代表する作品や美しい原画を紹介しています。

5．漫画の栄養源

トキワ荘の住人と通い組で結成された「新漫画党」の活動（合作・野球・8ミリ映画制作・麻雀・旅行・機関誌の発行など）を紹介しています。これらは彼らにとって創作の源泉、すなわち漫画の栄養源でした。漫画家として成功した今もなお解散宣言をしていないのは、彼らの原点がここにあるからでしょうか。

◆展示説明会

12月19日／1月9日／1月16日

当日午後2時、展示室に集合。〔横山〕

新寄贈資料紹介・疎開地での空襲―寮母日誌から―

今回、北茨城市の田村多喜子さんから、お母さんの田村玉枝さんが戦争中、長崎第三国民学校（現・椎名町小学校）の集団学童疎開の付添いの寮母さんをされていたときの日誌（山形市龍泰寺、一九四五年六～九月）をご寄贈いただきました。一部をご紹介します。なお、多喜子さんご自身も、疎開学童の体験をお持ちです。

（□は判読不能、〔　〕内は注記）。

八月十日

午前五時三十分より小型機の来襲、付近に機銃掃射爆弾攻撃を繰返せしも当寮被害なし

一日中実戦を目のあたりにして落付かず午前中山林（裏の）待避行する

（中略）

八月十一日

昨日に引つゞき小型機の来襲、鮮やかな指揮官機に続く急降下爆撃を目のあたりにして歯ぎしりをかむ思だった

児童寮舎内無事異状なし

大崎□□夕方より耳痛し訴ふ〔警報〕解除を待ち夕食　リヤカーにて医者に連れて行く頼めど□□□□は時間外すげなく断はれる止を得ず〔灯火〕管制下の暗い道を隠明寺医師の下を訪ねる快く診察トンプクを頂き学寮に戻ったのは十時半頃、皆相当疲労する

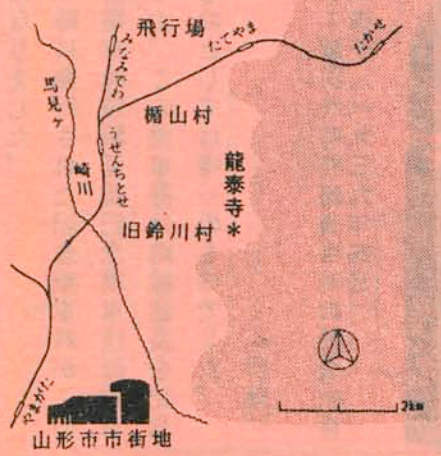
田村疲労の為午前中臥床

ところで、山形市発行の『やまがたの歴史』には山形市は「数少ない非戦災の県都の一つとなった」（三四七頁）とされています。

龍泰寺は、合併して山形市になったばかりの旧鈴川村にあり、中心市街地からは離れています。また、隣の楯山村は、日本飛行機株式会社の飛行場があって、空襲の目標とされていました。田村さんたちの体験した空襲は楯山村へのものだったのかもしれません。ただ、『やまがたの歴史』などには、八月九日の楯山村飛行場周辺への空襲の記述はありますが、十日、十一日は記録されていません。

細部についてはなお、詳しく検討する必要がありますが、はっきりしているのは、空襲から逃れるためとされた学童疎開の疎開先が決して安全な場所ではなかったということです。

〔青木〕



☆一点の資料から☆

市営電車池袋駅延長記念電車往復乗車券

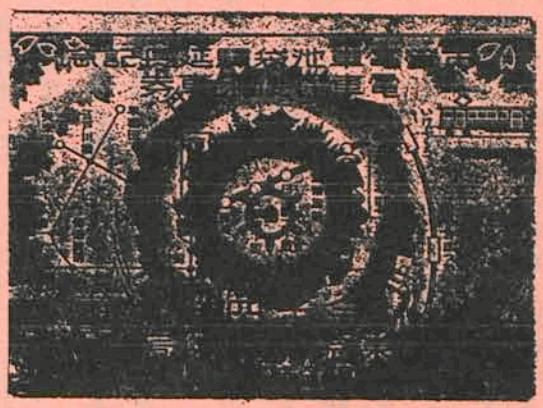
この縦五センチ・横七センチの小さな切符は、ＪＲ（当時は省線）池袋駅と都電（当時は市電）が接続したのを記念して発行されたものです。

市電と省線山手線とが接続するということには、東京の中心と郊外とが路面電車で結ばれるという重要な意味がありました。一九一一年に、東京鉄道会社の路面電車が東京市に買収されてから、その交通網は放射状に伸びて行きました。

豊島区における路面電車と省線との接続は、一九一一（明治四四）年の飛鳥山－大塚駅間の王子電気軌道の開通までさかのぼることができますが、これは観光地と省線とを結ぶ路線でした。

都心と郊外とを結ぶ路線という意味では一九一三（大正二）年の大塚駅との接続が最初で、その後、一九一四年に巣鴨駅が、一九二二年に駒込駅が市電と結ばれることになりました。

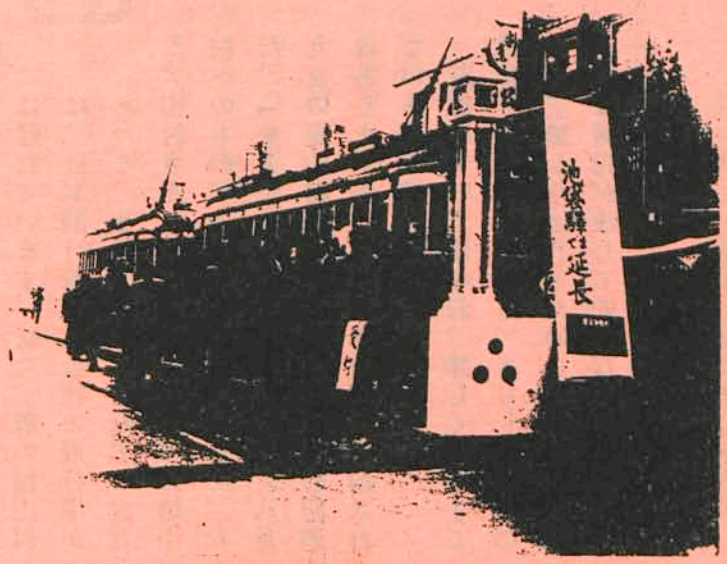
ところが、私鉄との乗換駅でもあり、一大ターミナルとしての役割を担いつつあった池袋駅は、昭和の時代に入ってもしばらくの間、市電との接続は果たされませんでした。しかし、ようやく一九三九（昭和一四）年の池袋駅－護国寺前間の開通により、池袋駅は市電と接続することになりました。



市営電車池袋駅延長記念乗車券

この時に発行された記念乗車券がこの「市営電車池袋駅延長記念電車往復乗車券」です。この乗車券は路線延長を記念するものとしては唯一のものでした。

［伊藤］



池袋駅－護国寺前間開通当時の池袋駅停留場の様子（一九三九年四月）

事業報告：子ども歴史探検教室「富士塚とねずみ山をのぼる」を開催して

地域史講座では、これまで地域の身近な歴史を題材に、おとなを受講者として開催してきましたが、今回は少し趣向をかえ、子どもとおとなが一緒にフィールドワークをしながら楽しめる内容を試みました。

講座は、一〇月二五日（土）と二六日（日）、二時から四時に行ないました（どちらか一日参加・内容は同じ）。二五日は小雨模様のなか、時折雨傘が必要になりましたが、二二名の熱心な方が参加されました。翌日は、打って変わって日傘が欲しいほどの天気となり、秋晴れのもと一八名の方が参加しました。なかには前日の雨模様で登りにくかった富士塚へ、翌日再挑戦された方もいらっしゃいました。

◆旧道の歴史を訪ねて

フィールドワークは、旧道の歴史を訪ねながら歩くというものでした。この道を〈往還〉という人もいますが、それは、落合（現新宿区）と中丸（現板橋区）をつなぐ道であるからです。

ここに簡略化した図を載せましたが、図中の、2お富士山、3延命地蔵、5地蔵堂、6御嶽神社、7長崎神社、8金剛院、9天祖神社、10ねずみ山の各所では、その場所に関係する歴史を説明したり、簡単な歴史問題を解きました。

小学校四年生の男の子には、各ポイントの到着と出発時刻を大きな声で言ってもらい、その掛け声におとなの参加者も、「ハイ」とよい返事をして行動しました。

そして全行程約二㎞、めでたく全員が完歩しました。

◆実際の歴史資料に触れて

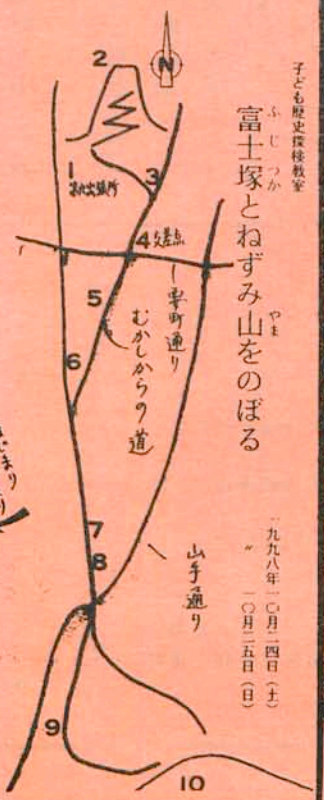
実はフィールドワークに先立ち、集合場所の第九出張所会議室では、コース上に関

三つ折りパンフレット片面

子ども歴史探検教室

富士塚とねずみ山をのぼる

（一九九八年一〇月二四日（土）
〃 一〇月二五日（日）



2 お富士山

◇富士塚を、したしみをこめてお富士山とよんでいます。この山は、むかしの人たちが自分たちで作ったのです。作った年が石碑（せきひ）にささまれてありますから、さがしてみましょう。

〈お山にはたくさんの木や草がうえられていますね。落ちた枝や葉をそうじしたり、草とりをしているので、きれいになっているのです。では、どなたがしているのでしょう？

お山にはたくさんの石碑（せきひ）がありますが、その上の方には、このようなマークがよくあります。

月三推名町元講（つきさんしいなまちもとこう）というグループの印なのです。

3 延命地蔵

〈お地蔵さんには、「とげぬき地蔵」というように、名前がつけられています。このお地蔵さんには、どのようなことをお願いしましょうか？

5 地蔵堂

◇ここのお地蔵さんは、霜田（しもた）地蔵さんと子育（こそだて）地蔵さんといいます。形のちがいをくらべてみましょう。

◇ここは、むかしから人がよく通る場所でした。そのため、道しるべがあります。また、縁日（えんにち）には夜店（よみせ）がならび、にぎやかでした。

うらへ

係する実物の資料を手にしたり身につけたりしました。

ボク石の登山道を登る。高松2丁目の富士塚。

富士山へ登った時の行衣や金剛杖は、大正時代から昭和初期にかけて実際に豊島区内の方々が使用したもので、子孫の方が資料館に寄贈してくださったものです。金剛杖には富士山の各合目の番号や名所の刻印があります。富士塚に登った時、そこにも合目を示すものがあることを知り、三合目を表示する石造の柱がないことを探してきた、実に意欲的な小学生たちがいました。

また、登山の時に首にかけた大きな数珠を下げてみました。これは参加者が、ご先祖の使用したものを、講座のために持ってきてくださったものでした。

◆参加年齢は四歳から八四歳まで

講座は、子どもを主体としたものでしたが、参加者の年齢制限はしませんでした。親子の参加が五組（両親と小学生の子ども二、三人）、親と子と孫という三世代の参加が一組、その他はおとなで、子どもに地域の歴史を積極的に伝えたいという意思をお持ちの方が、大学生をはじめ何人もいらっしゃいました。

世代間の交流が欠けている今、また、身近な歴史に関心が寄せられてきた今、これからも、このような機会を作っていきたいと思います。

この高松の富士塚については、現地で保存会の本橋勇さんと矢島満さんに説明をいただき、荒井豊さんには大数珠をご持参いただきました。紙面の写真は参加者の小林和子さんのご提供によります。ありがとうございました。

［福岡］

おにいちゃん、どんな気分？

編集後記

ここ数年、銭湯関係の資料の貸出しが相次いでいます。生活の基本的な行為の見直し？懐古？　最近、内風呂が故障したので銭湯に行きました。ケロリンの桶でお湯を浴びましたが職場を思い出し、浴槽に浸っていても、ゆったりとした気分にはなれませんでした。

［福岡］

かたりべ
No 52
1998年12月15日
豊島区西池袋2-37-4
電話03-3980-2351
発行／印刷
豊島区立郷土資料館